

アクティブ・ラーニングの取り組みに関する話題提供

「周手術期患者の看護授業の一例 ～Moodle を活用した事前学修とストーマケア演習～」

活水女子大学看護学部 教授 石橋カズヨ
(サイバー・キャンパス・コンソーシアム看護学委員会委員)

1. はじめに

成人看護学では、大人が個々にもっている「学習する力」を視野に入れて看護することが大事だよと伝えていきます。学生達もまた、対象となる人々が自らの健康問題に折り合いをつけながら QOL 向上へのマネジメントができるよう支援する能力を身につけるためには、講義・演習・実習の集積が必要なこと、いずれは実習で「大人」の対象者と向き合うイメージの中で「自分とは違う大人の存在」を意識しています。

紹介する演習では、これまでの生活習慣や生活経験の中に組み込まれていない「身体の一部を喪失した」患者（永久的ストーマ造設患者事例）にどう対応し、どうケアすればいいのかについて、事前学修と位置づけた Web 教材から学びとり、ケアに活かす足跡がみられたので、紹介させていただきます。

2. ICT活用を含めたアクティブ・ラーニングの取り組み内容

私達人間は <その場において、何を考え、どう行動したか><その場において、どう行動し、何を考えたか> その時の経験を振り返り身につけていくことを繰り返しながら生活をしています。自らの看護行動についても、何故それが必要なのか・何故そうするのかというエビデンスを明らかにし、これから体験する演習に意味づけして試みるという学習方法（行動科学の三領域の活用）を導入し、「認知領域、精神運動領域、情意領域」の行動プロセスを統合させながらの演習を期待する旨をオリエンテーションします。

Web 教材は、演習テーマ別に「基礎知識→動画→事例に対する演習課題」で構成したコンテンツとし、活水女子大学情報教育センターがサポートしている Moodle のシステムを活用して配信します。

本事例の基礎知識では講義で学んだ単孔式ストーマ以外のストーマの種類や合併症のあれこれをフィードバックできる内容を、動画はストーマ及びストーマ周囲のケアと糞便袋の交換をしている教員の映像に手技の単純な解説音声付き、課題は三領域それぞれの行動プロセスを立案して演習に臨むよう期待し、演習での教員は側面的にサポートすることを付言しています。学生は、学内 PC ・自宅 PC の他、携帯・スマホでの閲覧も可能です。そのため、演習直前にアクセス状況を把握し、演習参加の条件としています。

演習は、3 名 1 グループ（看護師役 20 分/1 人、観察者役、患者役：筆者が開発した貼付型ストーマケア演習用モデルを定位置に貼付）で 3 クール実施します。看護師役は、どのようにインフォームドコンセントを図るのか、どのような術後経過を根拠としてケアするのか、患者にどのような配慮をしながらケアを進めるのか等、自らの計画の趣旨を教員に報告後、開始します。最後の 20 分間は自己・他者評価とフィードバックを行います。

3. 教育効果並びに十分達成されない点とその要因・課題

Web 教材視聴後に行動プロセスを立案して演習に臨んだ場合と Web 教材を視聴して演習に臨んだ場合では、全員がアクセスしている状況下で、アクセス時期に違いがありました。前者ではオリエンテーション当日から演習日前日迄の 1 週間で万遍なくアクセスしているのに対して、後者では前日にアクセスが集中していました。学生達は、行動プロセスを立案するために動画で教員の行動を現象的に捕え、更にその行動をイメージ（表象）し、何故そうするのかを調べ、どう配慮したいのか思考し、結果として行動プロセスを記載する・・・という作業を繰り返したと語っています。では後者の場合はなぜ前日アクセスなのか、精神運動領域（手順）を視てくるに留まっている可能性が考えられます。演習前の事前学修を課す意図を、三領域で考えてみることも一考かもしれません。

4. 終わりに

対話集会の折に、復習や臨地実習での再利用等、皆様のご意見をいただければと楽しみにしております。